

年長児お泊り保育アンケートより

- 以前は7月の開催だったと聞きました。梅雨の時期なので9月開催は良いと思いましたが、猛暑が、長く続き長袖、長ズボン着用、お弁当などや熱中症もやはり心配でした。台風などの接近もありましたが、いろいろな行事を経験して、お友だちとも仲良くなってきた頃なので9月は良い時期だと感じました。
- 夏まつりの直ぐ後だったので、先生方の準備の負担が少なくなるのであれば、10月、11月でも良かったのではないかと感じました。
- 小屋浦みみょう保育園に宿泊先が変更になり、自分の布団で寝たこと、「ママの匂いがするから寝たよ！」など話してくれました。お泊り保育の目的は理解していますが、お泊り保育はしなくても良いのではないかと感じます。するのであれば今回のように園に泊まるのが親子とも安心するように思います。
- 星空観察の時の夏の大三角形の星のことを興奮気味に話してくれました。お姉ちゃん達（安田女子短大保育科2年生・5名）と遊んだことが嬉しかったようです。
- ちょっぴり寂しい気持ちもあったようですが、いろいろなことやその時の気持ちもたくさん教えてくれて成長を感じました。お泊り後何事も自分でする気持ちが強く頑張っている姿を目にすることが多くなりました。みんながいたから頑張れたようです。
- 熊目撃情報により急な場所の変更にも安全第一を考え、特別なお泊り保育になるよう予定を組み替えてくださりありがとうございました。"自分です！"の気持ちがお泊り前後で強くなり、今後の意欲つながることと思います。
- お泊り前に体調を崩していたのですが、「寂しくなかった？」と聞くと「ママのこと一度も思い出さんかった！」と言われてしまいました(笑)。備北公園で思いきりあそんだことや「あの橋が落ちる前に」(ゲーム)をママにも見せてあげたかったと言っていました。
- 未っ子だけいないことがなかったのですが、帰宅後お姉ちゃん達からお姫様のように優しくしてもらっている姿にホッコリしました。



令和6年 10月の保育園だより

『自立への原動力』

～子ども達に向き合う時間を大切に～

猛暑の夏は9月になっても続き、子ども達の水や土を媒介にしたあそびの世界は、個々の興味関心からお友だちと協同であそぶことへと広がりをみせています。年長さんは少し涼しくなった先月末頃には、樋へ流す水の量を微調整したり、樋を傾け流れを変える工夫するなど、あそび方にも変化が見られるようになりました。教えなくても発見したこと、不思議に思ったことを言葉で伝えあうようになり、学びを共有しようとする姿もあり成長を感じているところです。

年間の大きな行事として年長さんはお泊り保育がありました。宿泊予定の青少年野外活動センター付近の登山道で、熊の目撃情報があり、一週間前に目的地や宿泊場所の変更などを余儀なくされました。

一日目は、庄原の備北丘陵公園へ。その夜は小屋浦みみょう保育園に宿泊することになりました。当初予定していた芝滑り用のダンボールのそりは、丘陵公園の規則により、持参することはできませんでしたが、子どもたちは小屋浦みみょう保育園の芝山でそり滑りを満喫しました。

大きなお風呂にも入れませんでした。夕食後のキャンプファイヤーや花火を楽しんだ後は、温水シャワーをしてパジャマに着替えると星空観察もできました。

ゲストティーチャーとして小屋浦小学校の渡邊先生や香川校長先生をお招きして、夜空を見ると、なんと南西の高い所に1等星である、こと座のベガ(織姫星)、わし座のアルタイル(彦星)、はくちょう座のデネブを結んだ夏の大三角形という星座が子ども達にもわかり、職員も一緒に3階の芝生に寝転び夜空を見上げながら感動を共有することができました。

夕方まで出ていた月が、この時間には見えなくなったことに気付いた男児からは、「どうして月がいなくなったのですか？」という5歳児らしい質問も出て、不思議の世界は、次への興味関心につながったようでした。その日から10日後の中秋の名月

をどんな思いで、その男児は見つめたのかと想像すると、なんだかワクワクしてくるのは私だけでしょうか。

二日目、お迎えの保護者の皆さんと対面した時号泣した子が、ずっと涙していたわけではありません。一度もママのこと思い出さなかったと家庭に帰って言った子も、きつご家族のことを思い出した瞬間があったはず。子どもたちがいない一日をご家族の皆様それぞれが、子ども達一人ひとりの存在の大切さを確認されたことでしょう。そのことが子ども達の自立への原動力である、子ども達一人ひとりに向き合う時間を大切にすることです。

親元を離れてのお泊り保育の開催については、(開催時期、宿泊場所など)保護者の皆様が寄せてくださったアンケートからも、いろいろなご意見や感想があることがわかりました。

現在年長の担任達が子ども達と一緒にお泊り保育を振り返りながらドキュメンテーション作りをしています。(10/1～2F中央階段掲示)子ども達は環境が変わっても、信頼している大人や友だちとの関係性を土台に、いろいろな思いや葛藤の中で、自立に向けて、自ら生活やあそびを楽しむ術を持っていることが、ドキュメンテーションからも分かりお泊り保育の意義を実感していただけるのではないかと思います。

先日、幼児の保育参観の後の家庭教育学級講演会で、坂小学校校長・野間理香先生が就学前の家庭教育についてお話をされました。感想の中に「親がやってしまいそうな行動や声掛けが、子ども達の成長、好奇心、主体性の芽を積んでしまうことが理解できた。」「一人の人間として関わり子どもの意思を尊重しながらつかず離れず見守りたい。」「働きながら子どもとの時間の取り方に悩んでいたが、一緒に過ごせる時間を大切に接したい。」の声が寄せられました。

保護者の皆様と保育園が子ども達一人ひとりの思いに向き合い、自立に向け自己肯定感を育みながら、自ら考え行動できる原動力になるよう、協働しながら成長を見守っていきましょう。(園長)

坂みみょう保育園

アートな生活とあそび展

日時：10月26日(土)

1部 午前10時～11時30分

(入れ替え)

2部 午前11時45分～午後1時15分

※アートな世界とは？子ども達のドラマや体験、子ども達の作り出す世界の不思議さや素晴らしさを感じながら一緒に対話を楽しんでください。(事前に希望調査をします。詳しくは後日お手紙配布予定。)



幼児クラス保育参観・家庭教育学級のアンケートより

- 科学実験遊びの子ども達の驚きの表情がまじかで見られ子ども達がワクワクしているのが伝わってきました。子どもの好奇心や探求心を引き出すようなあそびをさえていただいて、ありがたいと思いました。サークルトークでは、自分の意見を伝えることができているように思いました。「ひらがなビンゴ」や「単位のクイズ」では頭を使い、「猛獣狩りゲーム」では身体を使って楽しみ、年長さんならではの保育参観でした。(年長)
- 親子で一緒に身体を動かし、たくさん笑って楽しい日でした。親も身体を動かしてストレス発散になりました。ルールを守ってのあそびもできるようになったことに成長を感じました。(年中)
- 家では廃材を使ってのあそびをしますが、親も楽しかったです。作った後それをごっこ遊びに使って自由に遊ぶ姿も見ることができ、普段の園での様子を知ることができました。(年少)
- 坂小学校野間校長先生の講演は、事前質問にも回答していただき大変参考になりました。幼児期に育みたい3点に絞って伺うことができ、『親』という文字から(木の上に立って見ると書く)共感、見守る、待つ、信じるなど親の立ち位置を意識して行動していきたいと思います。(講演会より)
- 土曜日の行事の回数が多いと先生達も大変だし、減るのもいいかなと保護者で話になることがあります。